

# まるもり 議会だより

Miyagi Prefecture  
Marumori Town Assembly  
News

第253号



2020. NOV  
令和2年11月1日

発行 宮城県丸森町議会  
編集 議会広報常任委員会



災害を乗り越えよう（筆甫地区健康まつり）

## 9月議会

確かな復興に向けて .....	2ページ
まちづくりへの要望 .....	5ページ
<b>一般質問</b> 8名の議員が町政を問う .....	11ページ



まあるい森の里からごんにちわ

# 確かな復興に向けて

## 9月議会のあらまし

9月議会定例会は、9月1日から14日まで14日間の日程で開催しました。慎重審議の結果、町長提案の議案等を、すべて原案どおり可決しました。

### 主な議案内容

- ◆各種会計決算の認定
- ◆専決処分した事件の承認（河川災害復旧工事ほか2件）
- ◆教育長・教育委員任命の同意
- ◆条例の一部改正（国民宿舍条例等、町営住宅条例ほか2件）
- ◆補正予算案
- ◆災害復旧工事 県と協定

一般質問には8人の議員が登壇し、自らの考えを交え町長の考えをただすなど、活発な議論が行われました。

総括質疑では8人の議員が質問に立ち、決算全般にわたる町政運営の質疑を行いました。

議会最終日には、決算審査特別委員長からの決算に同意する旨の報告を可決し、審査の過程で上がった要望事項を議員発議で町に提出しました。

また、産建教育常任委員会に付託した「請願2の1」は採択、「請願2の2」は趣旨採択すべきものとして報告がありました。質疑と討論の後、委員会報告とあり決定しました。（4ページに記載）

このほか、「請願2の3丸森町耕野地区に計画されている太陽光発電事業反対について」は総務民生常任委員会へ付託し、委員会では閉会中も審査を継続しています。

## 人事

教育委員会教育長選任の議案及び教育委員選任の議案は、全会一致で同意しました。

### ◆教育長（再任）

丸森町字除北  
佐藤 純子 さん



### ◆教育委員（再任）

丸森町字上地  
宍戸 克美 さん



### ◆教育委員（新任）

館矢間山田字新道  
佐藤 勝彦 さん



## 主な補正予算

新型コロナウイルス  
感染対策へ追加

2700万円

新型コロナウイルス感染症対策持続化給付金は、国の持続化給付金を受給した商工業者に対し、法人が20万円、個人が10万円の給付金を追加支給するものです。

町営住宅解体工事と修繕に  
2億2040万円

町営住宅（神明・竹谷・鳥屋）の解体工事に1億3040万円を追加、定住促進住宅（サンパレス千刈場、サンパレス千刈場第二）の災害修繕工事に9000万円を計上しました。

小規模災害復旧工事費に  
1億1000万円

農業施設の小災害分（農道63箇所、水路62箇所）として工事費5000万円、公共土木施設の小災害分（河川35箇所、町道85箇所）として工事費6000万円を計上しました。

排水ポンプの災害復旧  
4億2000万円

被災した鳥屋排水ポンプの災害復旧工事（口径400mmと口径800mm）及びポンプ場の耐水化工事を行うものです。

## 県が災害復旧

### 災害復旧工事の施行に 関する個別協定を締結

町道古田峠線の災害復旧  
工事を県に委託して行うた  
め、個別協定を締結しまし  
た。

古田峠線は昨年の台風に  
より被災した県道丸森霊山  
線の迂回路として使用され  
ており、当面は県が維持管  
理を行います。



県が災害復旧を行う古田峠線

## 条例改正

### 町営住宅条例の 一部を改正する条例

町営住宅の入居資格のう  
ち、60歳以上の方、障害者、  
子育て世帯、被災された方  
の所得要件を緩和する改正  
を行いました。

また、子どもの年齢要件  
を、「小学校就学前」から  
「18歳に達する日の属する  
年度末日」に改正し、子育  
て世帯の入居要件を緩和し  
ました。



いも煮で賑わう不動尊公園キャンプ場

### 国民宿舎条例等の 一部を改正する条例

指定管理されている観光  
交流施設の利用料上限額を  
引き上げる改正です。

内容はあくま荘宿泊料  
の上限額（一人一泊二食・  
トイレ付）を7480円か  
ら3万1350円（税込）  
に、キャンプ場利用料の上  
限額（一人一泊）を520  
円から2000円（税込）  
に引き上げる等で、多くの  
議員が質疑を行いました。

討論・起立採決の結果、  
賛成9・反対4となり、本  
案を可決しました。

## 反対討論

宮本昭雄議員

国民宿舎とは国民の健康  
増進を図るもの、気軽に低  
廉な価格で利用できるもの  
である。

他の国民宿舎の利用料設  
定を見ると、基準額を決め  
て指定管理者に料金設定を  
委ねている例が多く、その  
料金設定は町長の承認を得  
る流れである。

今回の提案は、条例額以  
内なら町長不承認ともとれ  
る内容である。

また、これまでと比較し  
4.2倍の利用料設定は余  
りにも町民を置き去りにし  
た唐突感が否めない内容で  
ある。

国民宿舎の設置趣旨に  
合った使用料体系として改  
正すべきと考えるため、本  
案に反対する。

## 賛成討論

船山俊一議員

他自治体の類似宿泊施設  
等を参考にしながら調査を  
行い、上限を設定するに  
至ったと確認した。

また、一般的に利用料金  
の上限が定められたとして  
も、民間企業は経営的な観  
点や費用対効果の観点から、  
お客様へのサービス提供に  
見合った料金設定を行うこ  
とが通常であると認識して  
いる。

更に、将来の様々な状況  
の変化等を見据えた上で、  
利用料金の上限を設定した  
ということも同時に理解で  
きた。

この改正は、あくまでも  
施設の現行料金を直接改正  
するものではなく、利用料  
金の上限についての条例改  
正であることを理解し、本  
案に賛成する。

## 請願審査結果

### 請願2の1

「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充、格差のない全国一律最賃制度の確立を求める政府に対する意見書提出の請願書」

審査を付託した産建教育常任委員会より、審査結果は「採択」と報告がありました。

質疑の後に討論・起立採決を行い、賛成7・反対6で、委員会報告のとおり決定しました。

## 請願2の1 反対討論

### 目黒越雄 議員

昨年10月の令和元年東日本台風災害により、本町ではこれまで経験したことのない甚大な被害を受けた。更に、新型コロナウイルスの感染拡大により、町の商工観光業や農林業など産業経済は大きな打撃と損失を受けている。こうした厳しい状況の中で、本請願は採択すべきでないと考えるため反対する。



筆甫小学校の放課後

## 請願2の2

「筆甫小学校の廃止の方針を撤回し筆甫小学校の存続を求める請願書」

審査を付託した産建教育常任委員会より、審査結果は「趣旨採択」と報告がありました。

質疑の後に起立採決を行い、賛成7・反対6で、委員会報告のとおり決定しました。

## 請願審査

9月議会定例会に次の請願が提出されました。

### 請願2の3

「丸森町耕野地区に計画されている太陽光発電事業反対について」

### 請願者

耕野地区太陽光発電事業反対期成同盟会

代表 穴戸 秀逸

耕野の自然と未来を考える会

代表 佐藤 浩昭

### 審査の経過

令和2年9月2日に総務民生常任委員会を開催し審査しました。

### 審査の結果

慎重に審査する必要があらることから、引き続き調査、検討を要するものと判断し、9月定例会後も引き続き審査を行うこととしました。



メガソーラー開発計画地の一部  
(耕野まちづくりセンター西側山林)  
(出典：国土地理院 地理院地図を加工して作成)

# まちづくりへの要望

## 令和元年度各種会計決算に関する要望



今年の米の出来秋に感謝（農事組合法人たてやまアグリサービス）

## 町の基幹産業 農業の持続可能性を 強めよ

- 所管事務調査、決算審査で出された要望事項を取りまとめ、議会として8項目を町長に要望しました。
- 1 税や使用料は負担の公平性と財源確保の観点から、適切な徴収に努めること。
  - 2 仮設住宅内のコミュニティ形成と被災者の心と体の健康支援を継続すること。
  - 3 町民の生命と健康を守る医療継続のため、浸水被害機器の早期復旧と医師確保に更に努め、経営改善につなげること。
  - 4 復旧・復興年次計画に基づき、事業を確実に執行し、町民の不安と不便の解消に努めること。
  - 5 持続可能な農業経営体の確保・育成及び農地等の整備を進め、基幹産業である農業の維持に努めること。
  - 6 新型コロナウイルス感染拡大防止を図り、町民生活と商工業者に関わる経済支援対策を強化すること。
  - 7 令和元年東日本台風による広範な内水氾濫等で被災した地域の、抜本的な再発防止策を速やかに実施すること。
  - 8 ICT教育の環境充実とともに、児童生徒の学びを支える施設整備に努めること。

# せる町づくりを

決算認定に関連した総括質疑(本会議)の中から取り上げました



オンラインショップ「マルフォリア」に携わる  
GM7の地域おこし協力隊（金山地区）

## 協力隊の活動効果は

**問** 現在29名の地域おこし協力隊が、地域振興に向け、各種事業及び活動に取り組んでいるが、その効果は。

**答** 人口減少の歯止め、地域活性化の両面において、協力隊による様々な貢献活動は、地域の大きな力であり、町の財産にもなっている。

## 心のケアハウスの運営は

**問** 昨年開設した子どもの心のケアハウスは、有効に運営されているか。

**答** 昨年度は、通所者が高校に入学をした例のほか、継続的に通所し学校に戻った子どももいる。ケアハウスの支援員が学校に出向き、教室に入れない子どもを支援する活動なども行っている。

## ポンプ場排水能力の確保は

**問** 住民の安全安心を担保するために、ポンプ場の排水能力をどう確保するのか。

**答** 新設ポンプ場の完成までに、現在のポンプ場の改善修復工事を急ぎながら、仮設ポンプやポンプ車の早急な手配によって、令和6年度までに万全な排水対策をとる。

## 病院経営の改善策は

**問** 令和元年度の決算では1億8600万円の赤字となっている。今後の改善策は。

**答** 平成28年度を境に患者が減少し、収益が減り始めた。経営改善計画を院内で検討して、今年4月から地域包括ケア病床を取り入れ、収益改善を図っている。



修理を急ぐ800ミリ排水ポンプ（丸森雨水ポンプ場）

# 安心して暮ら

## 学校トイレの洋式化を

**問** 今の生活様式に合わせて、学校のトイレを洋式化、温水洗浄便座化を進められないか。

**答** 学校のトイレは全て水洗式だが、洋式は一部である。丸森小の大規模改修では、全て洋式化で準備をしているが、洗浄便座は検討していない。必要性について考えていく。

## コロナ禍での移住策は

**問** 新型コロナウイルスを機に、テレワークの活用等により、都市部から地方への移住が進む中、今後、移住推進にどう取り組むのか。

**答** 町内全域に整備された光ファイバーを仕事で活用しながら、いい自然環境で暮らせる情報等を、移住・定住サポートセンターを通して発信していく。



より快適で衛生的なトイレに

## 小規模災害への対応は

**問** 国の補助対象とならない小規模な災害復旧の取り組み状況は。

**答** 現在、小規模災害の把握に努めており、工事については、補助災害の工事と近いところは、随意契約のような方法で補助災害と合わせて実施したいが、小規模災害復旧工事までは、まだ時間が必要である。

## 農地の災害復旧の見通しは

**問** 竹谷地区をはじめとした大規模災害復旧工事については、圃場整備の手法で復旧できないのか。

**答** 竹谷地区は、国や県の指導を受けながら、地元と協議を行ってきた。災害復旧完了後、とりあえず換地を必要としない段階解消などで、農作業の効率化を高めたい。



いたるところにある小規模災害

# 証 査 検 査 決算審査

## 決算審査特別委員会

会期中4日間にわたり、町長、副町長、教育長及び担当課長等の出席を求め、令和元年度の決算審査を行いました。質疑の一部を要約してお知らせします。

### 姉妹都市交流状況は

**問** 北見市端野町とアメリカ・ヘメット市との交流事業実施状況は。

**答** 8月に端野町から小学生12名が来町し、藍染やまゆ細工を体験した。12月には小学生15名が端野町を訪問し、雪中運

動会やカーリングを体験したが、北見市との物産交流とヘメット市との交流は台風災害のため中止した。



北見市端野町での雪中運動会

### 職員の健康管理を

**問** 発災以降、業務過多などの職員健康管理はどのような対応をしていくか。

**答** 全職員を対象にストレッチを実施した。結果は60名ほどがストレスを抱えていることがわかった。カウンセリングの専門家による相談事業で改善させたい。

### 貴重な文化資産を後世に

**問** 昨年災害などで、個人所有の貴重な文化資産の逸失などが心配だ。所有者の理解を求め、安全な保存を目指してはどうか。

**答** 昨年災害時には宮城県歴史資料保全ネットワークの協力を得て、廃棄等には十分留意した。安全な保存と継承を進めたい。

### 自力土砂払いなども支援を

**問** 昨年の災害で被災し、自力や業者に依頼して土砂払いした世帯に対しても支援の配慮を。

**答** 被害規模が確認できる写真などで申請を受け付けし、償還払いをしている。



←修復前



←修復後

台風で泥まみれになった貴重な文化財



## 農作物の普及促進は

**問** 有害鳥獣被害にあわな  
い、青とうがらしの拡大  
は。

**答** 栽培に取り組んでから  
今年度で3年目になり、  
昨年度は15名の栽培農家



利活用が広がりそうな青とうがらし

で年間収穫量は6054  
kgだった。  
これまでは漬物に加工  
されてきたが、今後は漬  
物以外の活用も検討する。

## 農業振興策の進捗は

**問** 農業振興ビジョン計画  
では令和6年度に農業産  
出額50億円となっている  
が、計画通り進められる  
のか。

**答** 生産者の意見を取り入  
れ、県、農業創造セン  
ター、JAと連携して、  
園芸振興をしっかりと進  
めていく。

## 道路の維持管理状況は

**問** 各地域に道路愛護会が  
組織されているが、運営  
や安全管理は整備されて  
いるか。

**答** 町内に188団体があ  
り年2回程度、地区道路  
愛護会に除草や側溝の土  
砂払い等お願いをしてい  
る。

また、町が総合賠償保  
険に加入している。

## 消防団に特殊手当を

**問** 災害時の消防団員の活  
動は、長時間に及ぶ危険  
な任務だ。出場手当のあ  
り方を見直すべきでない  
か。

**答** 特殊な活動の手当は、  
幹部とも協議して、内容  
を検討したい。  
また、昨年災害の活動  
は記録誌に残して、広く  
町民に伝えたい。



被災者救助に向かう町消防団（令和元年東日本台風）

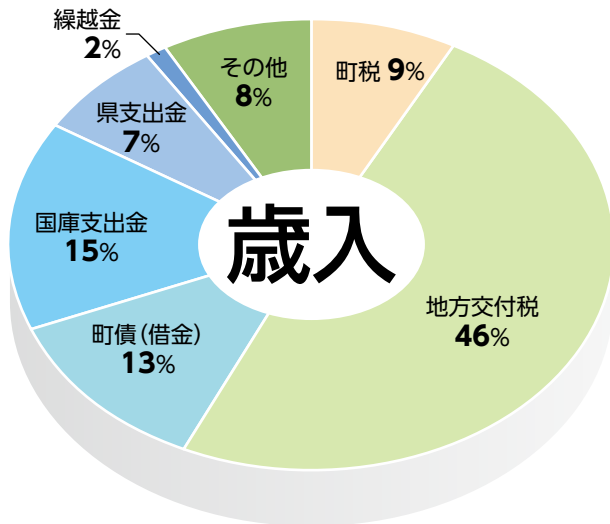
# 令和元年度 決算を認定

## 一般会計決算はこうなりました

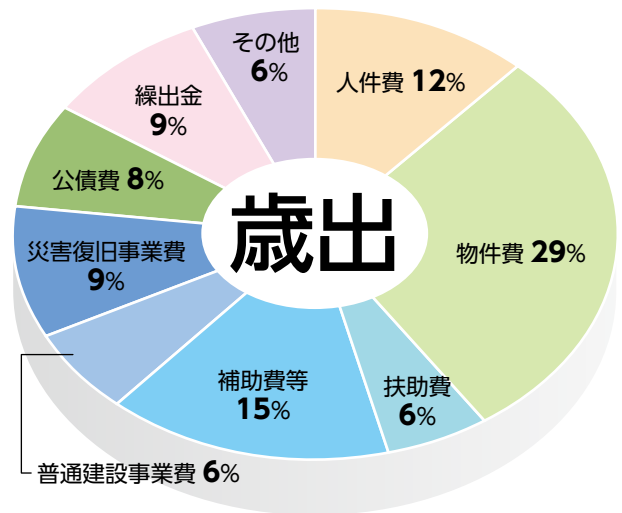
### 決算の審議結果

町長から一般会計、国民健康保険特別会計など7つの特別会計、丸森町病院事業会計、丸森町水道事業会計の合計10件の令和元年度歳入歳出決算の認定が提案されました。

議会では、決算審査特別委員会において詳細に審査を行い、本会議で採決の結果、いずれの決算も認定しました。



町税	12億8346万円
地方交付税	68億4204万円
町債(借金)	18億5307万円
国庫支出金	22億1548万円
県支出金	10億4421万円
繰越金	2億6496万円
その他	12億1910万円
<b>計</b>	<b>147億2232万円</b>



人件費	13億5534万円
物件費(委託料、物品購入費等)	33億1363万円
扶助費(児童手当、医療費助成等)	6億4145万円
補助費等	17億3896万円
普通建設事業費	7億685万円
災害復旧事業費	10億9418万円
公債費(借金返済)	8億7235万円
繰出金(他会計への支出)	9億9615万円
その他	7億5259万円
<b>計</b>	<b>114億7150万円</b>

歳入歳出差引額 **32億5082万円**

令和2年度事業への繰越金 3億7449万円 (使途が決まっている繰越金)  
 財政調整基金へ積立金 14億5000万円 (財源を調整するための積立金)  
 令和2年度への純繰越金 14億2633万円

会計名	令和元年度	平成30年度	伸び率	
一般会計	114億7150万円	82億2684万円	39.4%	
特別会計	国民健康保険	16億1485万円	16億3689万円	▲1.3%
	後期高齢者医療	1億6041万円	1億6545万円	▲3.0%
	介護保険	19億7326万円	18億5263万円	6.5%
	宅地造成事業	746万円	518万円	44.0%
	公共下水道事業	4億426万円	3億7478万円	7.9%
	工場団地造成事業	1895万円	58万円	3167.2%
	農業集落排水事業	9941万円	9351万円	6.3%
	小計	42億7860万円	41億2902万円	3.6%
計	157億5010万円	123億5586万円	27.5%	

病院事業会計			
収益的支出	11億7031万円	11億4064万円	2.6%
資本的支出	1億9140万円	1億6665万円	14.9%
水道事業会計			
収益的支出	4億3652万円	3億3094万円	31.9%
資本的支出	5億1352万円	6億2286万円	▲17.6%

※収益的支出とは、人件費や材料費など業務運営に係る支出。

※資本的支出とは、工事費や過去の建設工事のために借り入れたお金の返済など財産に係る支出。

決算額の比較(支出)

## 一般質問

# 町政を問う

一般質問とは、町に対して事務の執行状況や将来に向けての考えをたずぬるものです。  
今回は8人の議員が質問しました。

頁	議 員	質 問 事 項
12	鈴木 美智子 議員	● コロナ禍の復興と元気策は
13	船山 俊一 議員	● コロナ禍での観光回復は
14	一條 己 議員	● 「命の道路」改良整備を
15	宮本 昭雄 議員	● 復興そして活力再生を
16	一條 功 議員	● 阿武急と交通体系構築を
17	金森 裕之 議員	● 災害に備え総点検を
18	山本 明德 議員	● 復興意欲の後押しを
19	板橋 勇 議員	● 復興の進捗状況は



# コロナ禍の復興と元気策は

## 町長 感染防止と方策を検討



鈴木美智子 議員

コロナ禍で、台風の甚大な被害からの復旧・復興が足踏みし、町民の元気と町の活気も削がれた感がある。復興と元気策を問う。

**問①** 町民が楽しみにしていた、齋理幻夜やサイクルフェスタなどのイベントが中止となり落胆の声が聞かれる。

感染防止策を検討し、規模縮小でも実施して、町民の元気と町の活気につなげるべきではないか。

**答①** 参加人数の把握や接触回避が難しい齋理幻夜やサイクルフェスタは中止した。成人式など参加者がおお



3密を避けてのシルク和紙紙すき体験イベント（齋理屋敷）

よそ把握できるイベントは感染防止をして実施した。台風被害に続き、コロナで閉塞感や気持ちが沈みがちになっている町民がいるのは承知しており、感染状況などを注視して感染防止

策と実施の方策を検討する。**問②** 本町は台風被害で全国的に知れ渡り、義援金など多くの支援を受けたが、最近テレビに出ることも少なくなり忘れられるのを案

じている。

復興支援ツアーなどで支援が継続する取り組みで、観光交流人口の増加を図ることが必要と思うかどうか。

**答②** 台風とコロナで観光産業に大きな打撃を受け、回復の見通しが立たない厳しい状況だが、猫碑ツアーやころ柿づくり体験企画を検討するなど、地域の実践者や商工観光関連事業者と一体となり、この危機的状況を打開していく。

今後、被災地の現状を全国に発信しながら、交流人口の増加に努める。

**問③** 町外からの災害ボランティアの受け入れによる復旧・復興推進の考えは。

**答③** 派遣の依頼が少ないことや、コロナの影響を考慮して広く募集せず、町内のボランティアを募って活動してきた。

今後も町内若しくは県内の方に限ったボランティア活動を中心に被災者の要望に沿った支援を継続する。

# コロナ禍での観光回復は

## 町長 観光需要の喚起を図る



ふなやま しゅんいち  
船山 俊一 議員

ウイズコロナ期での旅行のあり方として、3密を回避しながら、近場で過ごす小さな旅行の「マイクロツーリズム」を進めることは、観光回復のカギである。また、旅行需要を喚起し、宿泊等の利用を促進することなどにより、観光の振興を図ることは重要である。

**問①** コロナ禍では、新たな旅行のあり方を創造していく必要があるが、近場で楽しむ小旅行としての、マイクロツーリズムについて、推進に向けた方向性を問う。  
**答①** コロナ禍における観光

需要の回復に向けた取り組みとして、移動距離の短いマイクロツーリズムは、大変有効であるため、当面は県内、または隣県市町村からの来遊者をターゲットとした誘客に努めるとともに、引き続き、観光資源の拡充及び創出を図っていく。

**問②** 観光回復及び地域経済活性化に繋がる事業展開を積極的に進めることは重要であるが、今後における観光需要の喚起策等を問う。  
**答②** 町内の観光施設の利用促進と、飲食や買い物などによる消費拡大を目指し、観光客誘客キャンペーンを実施する。

**問③** 多様化する旅行ニーズや、新しい生活様式に対応していくために、滞在型観光の拠点である、あぶくま荘の新たな整備については、建替えも視野に入れ、検討すべきではないか。

**答③** 今年度末までに、耐震補強を行う予定だが、建替え等の検討は、10年以内を目途に進めていく。

また、ラジオの特別番組を生放送で行い、秋の丸森の魅力をふんだんに盛り込んだ情報を発信し、町内への誘客を図っていく。さらに、商店街で継続的に行う売り出しセールや割増商品券の発行など、丸森町商工会等が行う事業への補助にも取り組んでいく。



新型コロナを乗り越えよう！「丸森応援セール」開催（八雄館）

# 「命の道路」改良整備を

## 町長 地域の意見を聞く



いちじょう  
一條

おさむ  
己 議員

令和元年東日本台風からの復旧・復興計画が策定された。同じ規模の台風が来ても耐えられる計画である。町内外の関係者が一丸となって計画の実現に向けて取り組み、ほかの町からもうらやましがられるようなまちづくりに期待して、3点について質問する。

**問①** 災害により孤立した住民の命をつなぐ道。住民が切り開いた「命の道路」がある。遠回りで狭い道路だが、後に住民の食料や安否確認・通勤通学の道となり、主要道路の復旧工事や倒れた電柱の再建など、大きな



命の道路 柳田峠線

役割を果たした「命の道路」を、重要な道路として改良を進めてはどうか。  
**答①** 災害復旧の進捗を見ながら、地域の方々に意見を聞き検討する。

**問②** 熊本県では、7月4日の豪雨により球磨川が氾濫し、老人ホームが水没。入所者14名が死亡するなど多くの被害が発生した。阿武隈川防災でも、介護

施設入所者の避難対策や、住民の垂直避難ルート確保など、有効な対策を早急に進めてはどうか。

**答②** 阿武隈川の洪水想定区域に11の要配慮者施設があり、高齢者施設は5施設ある。2施設は避難確保計画を作成済だが、3施設には、作成するよう働きかけている。垂直避難については避難に適した建物が少ないので、早期避難を実現するための「マイタイムライン」の設定を働きかける。

**問③** 町は災害後の生活再建策を始めているが、人口の町外流出が心配される。

定住のこれまでは、町内に仕事を見つけた人の定住が多い。町外から本町への通勤者に絞った対策に取り組んではどうか。

**答③** 住宅を整備して住民を呼び戻すとともに、今後は町内企業に移住定住に関する情報を提供するなどして取組みを進めていく。

# 復興そして活力再生を

## 町長 農業生産50億円目指す



みやもと しょうお  
**宮本 昭雄** 議員

災害復興とともに、町の活力と暮らし再生も重要だ。次の点の取り組みを問う。

**問①** 活気ある農業再生のため、町農業振興ビジョンをどう推進し、目標達成につなげる考えか。

**答①** 台風での農業部門の被害は231億円と大きく、復旧には国と県からの各種支援策を当て対応している。農業用機械の再取得や、農地への土砂流入対策などを進めてきた。

農業振興ビジョンの目標達成は令和6年度予定である。担い手確保や、畜産・園芸部門を伸ばしながら、

農業産出額50億円の達成と農業復興を成し遂げたい。

**問②** 農業創造センターで、農業・農村の活力につながる新たな事業を推進できないか。

**答②** ブロッコリーや小菊に加え、高設栽培イチゴ、トウモロコシなどの新規栽培者を掘り起しながら園芸部門拡大を進める。

これら作物やブランド米の栽培技術の定着で、所得と営農意欲の向上による農村活力再生につなげたい。

**問③** 良好な自然と生活環境を守ることは、町民の安心暮らしにつながる。

3月に条例化した太陽光発電などの「設置と調和に関する条例」は地域の生活の安心・安全に着目したものである。

地域で反対が多い開発計画などに対して、条例をどう運用し、対処する考えか。  
**答③** 条例は5月1日から適用とした。開発にあたって

は住民の理解と良好な関係の上で進めることを求める条例である。

環境保全に配慮し、災害等で地域生活に影響を及ぼさないことを指導する。

従わない場合は、事業者名、指導勧告内容を公表するなど毅然と対応する。

最終許可権の県に対し、地域調整不足などあれば、しっかり意見を添える。



農業生産額50億円達成の一翼を担う完成間近の子牛育成センター（町営放牧場）

# 阿武急と交通体系構築を

## 町長 利便性向上に努める



いちじょう  
一條

いさお  
功 議員

台風第19号豪雨災害により、甚大な被害を受けた阿武隈急行線が、本年10月に全線開通の見通しになったことは、町復興に大きな材料だ。

町発展に資する、また町民の足として利用され易い阿武隈急行線にしていくことが大切だ。

町長に問う。

**問①** 町は今後、どのような利用促進をして、阿武隈急行線を存続させようとしているのか。

**答①** 通学定期の助成やフリー乗車券等の支援を行うなど、沿線市町と連携して



阿武隈急行線と町民バスの接続（丸森駅）

利用客の回復を図る。

**問②** 利用拡大にならないのは、町内交通手段である町民バスやデマンドタクシー、

白石市民バス等とリンクしていないからではないのか。

**問③** 阿武隈急行線を中心とした利便性の高い町内交通

体系整備と、仙南地域市町とも連携して、市町境界でも継続乗車できる交通体系を構築する。

また、阿武隈急行線の仙台への乗り入れ増便やJR東北本線を経由しての環状運行もできれば、人の流れが活発になり、経済活動が生き返り、観光が復活すると思うがどうか。

**答②③** 交通空白地の解消や高齢化等に対応した公共交通サービスを提供してきた。更に、阿武隈急行線と連携した機能強化や効率化を図るため、阿武隈急行線のダイヤ改正に合わせ乗継ダイヤの改正を行い、接続性の改善を行ってきた。

今後も、引き続き、阿武隈急行線と路線バス等の役割分担を整理していくとともに、互いに補完し合った、効率的で利便性の高い町内交通体系の整備に努める。



# 災害に備え総点検を

## 町長 点検・整備を徹底する



かなもり ひろゆき  
**金森 裕之** 議員

令和2年7月豪雨により、九州地方を中心に各地で被害が相次いだ。今後、台風が発生や局地的豪雨が予想されることから、本町においても台風に備えて、改めて点検する必要があると考える。

また、コロナ禍での避難所対策について町長に問う。

**問①** 町内の道路、河川橋梁など復旧工事が行われている。台風、大雨シーズン前に点検、整備を行うべきではないか。

**答①** 工事業者や職員等による巡視を強化するとともに、台風や豪雨等発生時について

ても職員による点検パトロールを実施し、安全確保に努める。

**問②** 7月28日の大雨では、町内4か所に避難所が設置された。コロナ禍での避難所は感染リスクが高いと思うが、感染予防対策は万全か。避難所でのマニュアルを作成すべきではないか。

**答②** 避難者に対し検温、体調の聞き取りを行い、発熱等の症状がある場合は別室に案内するなどの対応を行う。また、定期的な換気や飛沫防止用具等を準備して、衛生環境の保持に努める。なお、テント型パーティションを9月中に導入予定である。マニュアルは作成中である。

**問③** 地域の防災情報を知る事が出来るハザードマップが未だ更新されない状況である。防災のためにも地域で活用するうえで、丸森町独自の防災マップの住民への配布が急務である。いつ

配布できるか。

**答③** 県では今年度中に洪水浸水想定区域図を作成する予定であり、現在、町として地域防災計画の見直しを

行なっていることから、作成・配付は3年度になる見込みである。その間、町広報誌などで情報提供し、補完に努める。



県道丸森梁川線の点検整備をする作業員

# 復興意欲の後押しを

## 町長 住民に向き合い取り組む



やまもと 山本 明徳 議員

**問①** 小学校2校への再編は地域の衰退につながる。継続を希望する学校は残して、活性化の施策を共に考えることが、復興に向けて立ち上がる地域の励ましとなる。学校と地域の関わりをどう認識しているか。

**答①** 地域の人的・物的資源を生かして、体験活動や伝承活動等を通して地域の人々と交流協力関係を実践する協働関係にある。

**問②** 文科省は、学校の統廃合について地域合意の重要性を指摘している。学校再編は地域住民の意思確認を改めて行うべきではないか。



開発が計画されている耕野地区の山林

**答②** 4年間に渡り様々な検討を重ねてきて、住民説明会を持ち再編の方針は町民に理解してもらっていると考える。改めて意思確認を行うことはしない。

**問③** 筆甫地区住民の総意として、筆甫小存続の要望が出されている。5月以降住民の理解と協力を得るために話し合いや働きかけを行ったのか。

**答③** 話し合いの場を設けてはいない。今後、町政懇談会場で理解を求めていく。

**問④** 耕野地区の巨大メガソーラー発電施設建設計画は、災害への不安から建設反対の運動が起こっている。住民の命や財産を守るためにどう対応するのか。

**答④** 住民が抱える不安は十分に理解できる。条例等に基づき、住民不安に向き合いながら事業者に対して指導していく。

**問⑤** 事業者は開発会社を二つにし、開発面積も環境影響評価基準に抵触しないように半分にしている疑義がある。しかし、調査会社や造成事業者は同一である。許されない問題だと思いませんか。

**答⑤** 住民との合意が大切であり、生命と財産が守られない限りは反対していく。協議会でも、その立場で県にも意見を述べていく。

# 復興の進捗状況は

## 町長 早期生活再建に取り組む



いたばし  
板橋

いさむ  
勇 議員

**問①** 町全体の公費解体棟数と、店舗、住居、物置等その他のに分類した内訳を問う。  
また、金山地区の分類別棟数を問う。

**答①** 8月末の解体申請棟数は435棟で、内訳は、住家153棟、空き家61棟、店舗7棟、物置等214棟である。金山地区は住家35棟、空き家21棟、店舗7棟、物置等51棟で合計114棟である。

**問②** 令和元年東日本台風での住家被害は1061件と報告しているが、被災者生活再建支援法に基づく生活再建支援金支給件数を問う。

**答②** 8月末の基礎支援金の申請件数は326件で、支給済件数は318件である。また、加算支援金の申請件数は134件で、支給済件数は121件である。

**問③** 丸森町住宅再建促進事業の補助金申請状況を問う。

**答③** 事業に対する意向調査の結果は、「自宅を建替えまたは新築したい」との回答が58世帯あった。

8月末での申請受付件数は10件で、うち土地取得費の加算分の申請が5件ある。

**問④** 災害公営住宅及び町営住宅の整備に、町産材を活用するにあたり、乾燥・製材・プレカット加工等への対応を問う。

**答④** 短期間に160戸を整備するので、原木の供給を始め、製材・加工も相当な規模になるが、森林組合や町内事業者で構成される協議会が、設計段階から建設まで関わるため、資材は計画的に発注・調達ができる。

**問⑤** 町産材での災害公営住宅・町営住宅建替え整備事業は、県のみやぎ環境税からの交付金等はないのか。

**答⑤** 対象外であるが、企業版ふるさと納税や、国県の補助金、起債等で対応する。

**問⑥** 企業版ふるさと納税の進捗状況を問う。

**答⑥** 8月末での寄附申出件数は13社、金額は5855万円である。



解体予定の金山町駅

# 災害対策調査特別委員会の活動報告

令和元年台風第19号災害対策調査特別委員会は、昨年12月から引き続き災害対策調査を15回開催してきました。今回は4月から10月まで7回開催した特別委員会の内容についてお知らせします。

**4月** 復旧・復興計画（中間案）地区説明会の状況や住民意向調査結果

**5月** 道路や河川、農地などの災害復旧進捗状況の調査



大内清水揚水機場復旧工事

**6月** 復旧・復興計画（最終案）の調査

**7月** 災害公営住宅及び町営住宅整備方針の調査

**8月** 災害復旧工事（河川・農地・災害公営住宅建設予定地、産業伝承館）の現地調査

**10月** 災害公営住宅や町営住宅整備の進捗などの調査

**10月** 災害から一年経過後の復旧・復興事業の進捗調査



産業伝承館水道施設工事

復旧・復興計画では、甚大な被害となった河川は、国や県が主体となって復旧工事を行うことや、被災者の生活を支援する地域支え合いセンターの設置などにより、ハード施策とソフト施策のバランスを取りながら、次代へつなぐ新たな丸森づくりを目指しています。

今後、復旧・復興計画の進捗状況について調査を行い、一日でも早く復旧・復興が成し遂げられるよう、議員全員一丸となって取り組んでまいります。



10月の災害対策調査特別委員会

# 常任委員会で所管事務調査を行いました。

## 役場の仕事を

## 千エツク

### 総務民生常任委員会

#### 総務課

- ・ 防災体制と今後の取り組み
- ・ 自主防災組織育成の取り組み

#### 町民税務課

- ・ 被災建物公費解体の事業見込みと処理状況

- ・ 現地調査（大内山村広場）

- ・ 災害廃棄物処理事業の状況

- ・ 災害関連での税等の減免状況及び災害等による収納への影響

#### 保健福祉課

- ・ 被災者支援事業の実績



解体家屋仮置場（大内山村広場）

#### 子育て定住推進課

- ・ たんぽぽこども園の被災内容と復旧内容
- ・ 現地調査（たんぽぽこども園）

#### 丸森病院

- ・ 台風被害の実態と復旧計画

### 産建教育常任委員会

#### 農林課

- ・ クラインガルテン（滞在型市民農園）施設の状況
- ・ 現地調査（不動尊クラインガルテン）

#### 商工観光課

- ・ 令和元年東日本台風及びコロナ禍における町内事業者の現状
- ・ 起業支援推進事業への取り組み

#### 建設課

- ・ 河川改良復旧工事の状況
- ・ 現地調査（五福谷川）
- ・ 雨水ポンプ場の復旧状況
- ・ 現地調査（雨水ポンプ場）

#### 教育委員会学校教育課

- ・ 教育施設の復旧状況と今後の進め方

#### GIGAスクール構

- ・ 想実現に向けた取り組み



五福谷川流域に設置された強靱ワイヤーネット



## 安心な丸森で

## 暮らし続けたい

小斎地区

北村 みどり さん

Q 出身はどちらですか。移住したのはなぜですか。

A 東京生まれです。結婚して神奈川県に住んでいました。

農薬や化学肥料を使用しないなど、安心して食べられる作物を作るための場所が近くになかったからです。

Q 丸森町を選んだ理由は。

A 箱庭のような風景が各地にある、可愛らしく素敵で綺麗な丸森に感動し、小斎に住むのを決意しました。

Q どんな農業をしていますか。

A 畑のうねを活かして、耕やさずに植え付け、土の上に少量の油粕や米ぬかをまく不耕起自然農業です。

Q 移住し30年が経ち町への思いは。

A 高齢で車の運転が不安になったら交通等の生活環境が整った東京に戻ろうかと思っていました。

母の介護で東京に通うようになり都会の良さを感じた反面、コロナで店の品は一瞬でなくなり仕事も失う、もろく弱い幻のように見えました。

丸森の自然や田畑は確かなもので、生きるために必要なものはここにある、高齢でも安心して暮らせるのは丸森だと改めて思いました。

Q 今後どんな町を望みますか。

A 山を維持して仕事につなげて、薪を利用した暮らしで森を循環する仕組みを作って欲しいです。

御協力有難うございました。

(鈴木美智子 副委員長)

## 議会映像を配信しております

町民の皆さんに議会と町政に関心を持っていただくため、議場での本会議の映像をインターネットで配信（ライブ中継）しております。

また、インターネットでは、過去の一般質問の録画映像を視聴することもできます。

丸森町議会ホームページよりご覧願います。

丸森町議会中継

検索

## 表紙のひとば

9月27日、毎年恒例である筆甫地区健康まつりが小学校を会場に開催され参加してきました。

今年は、新型コロナウイルスの影響により、時期をずらし競技内容を11競技に縮小して、午前中のみ開催となりました。

当日は曇り空で肌寒い日でしたが、多くの方々が参加し、熱い声援を送っていただきました。

また、活気あふれる小学生による演技、ダンスを披露するかわいい保育園児を見て、心温まるひと時でした。

(金森裕之 委員)

## 次の議会は、

午前10:00～

## 12月15日(火)より開会予定です

※日程は変更になる場合があります。

※本会議の日程は、後日、町ホームページでお知らせいたします。

※新型コロナウイルス感染の状況により、傍聴を制限する場合があります。

お問い合わせ先 議会事務局まで ☎72-3038【直通】

## 議会広報常任委員会

委員長	大槻 正儀
副委員長	鈴木美智子
委員	金森 裕之
	山本 明徳
	船山 俊一
	宮本 昭雄